

第2号

平成3年  
9月1日

題字  
植木 満支部長

# 東進

発行所

土浦一高東進会

茨城県立土浦一高  
進修同窓会  
東京支部

事務局 〒101 東京都千代田区神田神保町2-14 朝日神保町プラザ801号  
千代田法律会計事務所内 ☎03-3262-0310 FAX 03-3262-0648



平成3年度 東京支部総会にて（東京プリンスホテル）

## 「土浦一高東進会」と命名

青春の一時期を過ごした学び舎に、また校庭の木々に刻んでいた思いを蘇らせる同窓会。その時だけは、現在の年齢を超越して、みな「青春の集り」だ。そこは単なる感傷の場ではない、青春の血を甦らせ明日の力の源にもなる。今年も芝の東京プリンスホテルに二百人近い「青春」が集まった。

本年の総会での意見などを参考に、進修同窓会東京支部の通称を過日の東京支部役員会において「土浦一高東進会」と命名いたしました。東京という狭い地域のイメージを避け、東の国なる万年青年がいつも若々しく生きて行く意味を含んでいます。

そして、土浦一高東進会の機関誌である本誌は、「東進」として、東進会の活動を年一回の総会だけに終らせず同窓生のそれぞれの思いを伝え合い、みんなの活力の場にしたいと考えています。

東進会の中には、各年次の横のつながりだけではなく、仕事や遊び、趣味などいろいろな接点を中心にして、サークルが多くなり、大きな輪になっていくことが期待され、幹事会でもいろいろ企画中です。

「東進」の紙面が、近い将来そのよいうなサークル活動の記事で溢れることを、編集委員会は、胸をワクワクさせて期待しております。

これからの進修同窓会



平成三年六月十九日、東京プリンスホテルに於いて行われた土浦一高進修同窓会東京支部の総会は二百名弱と多数の出席者をおおぎ、たくさんの出会いと数々の思い出と共に無事閉会出来関係者と共にほっとしているところだす。諸先輩はじめ学校関係多くの皆さんのご協力で感謝します。

東京で同窓会活動があるという宣伝もこれからのことだしいろいろな出会いのなかから趣味の集まり、仕事関係での情報交換、同郷意識といわゆる同窓生としての連帯感その他様々なものが混在し、先輩後輩を抜きにした遠慮のない日頃のお付き合いが活発になって始めて年に一度の出会いが、集まるみんなに有意義なものになるのではないかと思う。

土浦一高に学び卒業した人達は東京はじめ神奈川・千葉・埼玉に約五千人を数えるという。東京で同窓会が催さ

れているということもまだ充分に知らず、その前提としての名簿の作成もこれから又先に述べた様々な活動（おそらく自然発生的に行われるだろう）もこれから始まる。出席者の皆さんからの発意が同窓会活動を年一回の集まりだけのものではなく日頃のお付き合いにあるということになればこれからの同窓会の出席者は毎年増えていくだろうと思う。

三年前に私は副支部長に任せられ、役員ということから打ち合わせで二ヶ月に一度位同窓会活動に参加するようになり、自分自身も先輩後輩という堅苦しいものでない楽しい集いへの参加に意義をみいだした経緯があり、今迄まったく一人ぼっちだった東京での自分よりはこれからの人生に多くの楽しみを見出せ有意義な人生が始まる予感があります。この思いを卒業生全部に共有して欲しいと思い、これからの同窓会活動のエネルギーに活用したいと考えています。幸い植木支部長をはじめ多くの諸先輩方のご指導もあり団結力協調性一体感等々どれをとっても申し分なく、自分も微力ながらその一端を担い将来はより多くの人達が集まる同窓会になれるように頑張りたいと思うこの頃です。

さて、来年はどういう同窓会になれるか多くの皆さんに活発に参加を呼びかけるよう、努力したいと思います。

(昭和三十六年卒 土金 雅晴)

平成三年度総会に寄せて

小生、今年度より会計幹事役を山田氏より引き継ぐことになりましたのでよろしくお願ひします。今年度は事務局の住所変更等に依り、印刷物等の発送に手間取り各会員の出欠の返信の集計が少し遅れましたが各学年幹事役員の御努力に依り開会時には百八十名余の参加者がありほっと致しました。

本年度は趣向を替え、茂在寅男氏の海底探査などについての面白い十分間トークのほかに、渡辺光夫先輩のお世話で阿見町の君島芸能保存会御一行様をお招きし、開会式と同時に懐かしい郷土の祭の太鼓と笛の音が会場に心地よく鳴り渡り、都会に生きる慌ただしい毎日をしぼし忘れさせました。

又各同窓学年毎のテーブルにはいろいろな会話がはずみ会場はいやが上にも盛り上がりました。これを機会に小生は土浦一高卒業生が各分野にわたり活躍されている生の情報等が聞け、又それにより自分も頑張る生きて行く励みになるのではないかと思います。来年度の総会をもっと盛大に且つ充実したものに行きたいと思ひます。

植木支部長のお力で今年度も立派な会場を用意して戴きました。そして各先輩、各幹事役のご協力で土浦一高東京支部総会を開催出来たことを心から感謝致します。

(昭和二十七年卒 坪井 洋)



# 東京に故郷の祭が やってきた

## 熱演

### 「君島ひよっこ」

（連中）

ピーヒャラピーヒャラ（笛） テテン  
カテン（小太鼓） チンチラチンチラ  
（鉦） ドドンガドン（大太鼓）

東京プリンスホテル・マグノリアホール。金屏風にシャンデリアが輝く中百四十年の歴史を誇る「君島ひよっこ」の名演技が次々に披露され、参加者一同を、なつかしい故郷の夏祭りの賑いの中へとタイムスリップさせる。演ずるのは阿見町「君島芸能保存会」の連中。

嘉永五年（西暦一八五二年）平和な君島村に悪病が流行し、可愛い盛りの生命が数多く奪われた。村民は恐れ悲しみ「天王様」を祭り、悪病退散を祈願した。これが「君島ひよっこ」の起源である。以来、旧暦の六月十四日から三日間、山車を引き、賑やかなお囃子につれて踊る夏祭りが年々盛大に行われている。

賑やかなお囃子につれて踊る演技は農夫の姿で、世の安泰により農業に励むことが出来る喜びを表現する「ひよっこ踊り」。無病息災・家内安全・厄払いを祈願して舞う「獅子舞」。「おかめ踊り」は、天の岩戸の変に、舞いを



舞って天照大神をお慰めたアメノウズメノミコト（天鈿女命）・鼻天狗の妻である「おかめ」が世の中が明朗平和であることを願うもので、女性的に静かに踊り、五穀豊穡・商売繁盛のための「きつね」は勇み踊る。しめくゝりは保存会総がかりの、賑やかで華やかな「源太踊り」

ピーヒャラピーヒャラ・テテンカテン・チンチラチンチラ・ドドンガドン「お父さん！ お祭り連れてって！」「綿あめ、アイスクリン、どちらにしようかな？」……体中に甦る父母の掌のぬくもり。懐かしい故郷の日々。タイムスリップしたお祭りの夜は賑やかに更けて行く。

「人生は出会いである。出会いを大事にせよ」とはドイツの詩人カロッサの言。君が憂に我は泣き、我が喜びに君は舞った、故郷での、土浦中学（現土浦一高）での幾春秋。その深き縁が「君島のひよっこ」によって改めて想い起こされ、更に人間関係を大事にしながら生きて行こうと念じた次第であった。おわりに、「君島芸能保存会」大竹一郎会長はじめご連中の皆様、並にご協力戴いた渡辺登君（町議・阿見町文化会々長・昭和三十一年卒）に感謝の意を表明する。

祭笛高音の時は小指あげ

男の姿みな佳かりけり

（文） 昭和二十年卒 渡辺光夫  
（写真） 同右 篠田 康

## 「君島芸能保存会」

代表者会長大竹一郎

連絡先稲敷郡阿見町君島五六一一 郷土芸能「ひよっこ踊り」を後世に伝えることを責務として昭和四十三年六月君島芸能保存会が結成され現在に至っている。この間、地元小学校児童へ「ひよっこ踊り」とおはやしの伝承や茨城県立美浦養護学校地域交流会での「ひよっこ踊り」の伝承をはじめとして地元運動会、敬老会、シルバー大会、芸能発表会、土浦七夕まつり等に出演しながら伝統芸能の普及活動を続けている。

昭和六十年十一月

茨城県知事ばら賞受賞

昭和六十二年七月

阿見町無形民俗文化財指定



亀城ヶ岡での思い出



現在の土浦一高の進学率が、県下は勿論のこと全国でも優秀な程発展していることは誠に嬉しい限りである。時代は遡るが、我々卒業の昭和八年頃はまさに軍国主義の世相、進学と言えば陸士・海兵・一高(↓東大)が肩を並べていた。同期の渡辺は陸士を、私は海兵を目指して猛勉強に励んだことは無論である。

入学試験は終り、紀元節の合格発表を待つばかりという一月下旬、「いばらき新聞」朝刊の一面に五段ぬきで、『土浦中学校に赤の卵』と載ったのである。学校も町も村も大さわぎとなった。当時は「赤」即ち左翼主義など元

談にも口に出せる時ではなかった。学校には軍事教官として大塚陸軍大尉が配属されていたが「これでは軍部学校合格の望みはない。覚悟を決めて今のうちに方針を変えるように。」と言われた。然し私は皆を集めて、「我々が潔白であることの声明文を作り、五年生総員血判を押し、代表が明朝、県知事・文部大臣・陸軍大臣に提出に行きたい。」と提案した。提案は即座に可決された。三枚の声明文は一五〇名の五年生一同の情熱こもれる血書となったが、先生方の必死の説得により校長の手許にとどめ置かれたのである。

いよいよ紀元節となり、重苦しい空気の中で式を終り、自転車を踏む足も重く、軍人がダメなら先生になろうかと考え乍ら帰途についた。ところが途中で自転車を押し乍ら坂道を登って来る父が私を見つけて大声で叫んだ。

「海兵合格の電報が来たぞーッ」  
私はその電報を握りしめ懸命に中学へとって返した。職員室に飛び込んで、「大塚先生これッ」と電報を差し出した。血書のこと鳩首協議していたらしい先生方は、何事かと一斉にふり返った。電報を見た大塚先生が「日辻が海兵に合格しましたッ。この通り。」と電報を高々と振ってみせた。職員室内がどよめき、歓声があがった。校長先生が「よかったッ。おめでとう。これで解決だ。」と私の手を握りしめた。翌朝、渡辺も「俺は陸士合格しましたッ。」と校長室へかけこんだ。  
朝礼で二人はお立ち台上である。校

長は二人の合格を告げ、これで赤問題解決と万歳を叫んだ。みんなが唱和した。校歌も流れた。五年生一同、三枚の嘆願書を灰にして空にふりまき乍ら校歌をどなりつづけたものだ。

ああ、若き日の感激！

(昭和八年卒 日辻 常雄)

△日辻常雄プロフィール▽

大正三年つくば市(旧小田村)生れ

昭和八年土浦中学校卒業

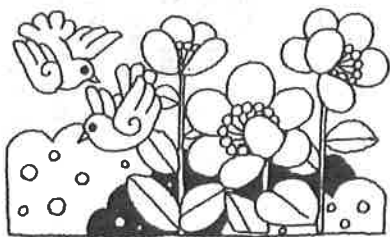
昭和十二年海軍兵学校卒業

九七式飛行艇(昭和十二年完成)や

二式大艇(昭和十六年完成)にて激戦の地を駆け巡った。

終戦時、日本海軍最後の二式大艇を操縦し米軍に引渡す任務を果たした。

その後、海上自衛隊、新明和工業㈱に於いてもPSS-1なる対潜飛行艇と共に歩んだ。  
(中野区在住)



学徒動員の事

環境破壊の湾岸戦争、映画「戦争と青春」で思い出されるのは、学徒動員であります。旧制中学二年、土浦郊外の航空廠にて、赤トンボ名の複葉機の整備の仕事、終戦の二十年四月頃より空襲が激しく、敵機の機銃掃射に見舞われ、女子学徒三名の犠牲者が出たと聞く。疲れ切って寮に帰れば、今日も無事かとノミの群衆が迎えてくれる。食事は大豆と芋の中にご飯が混じって栄養失調寸前、何故か食堂の親父だけがぶくぶく太っていたのを思い出す。消灯前の僅かな時間、教科書に目を通す事もなかった。八月十五日終戦、今後の世代にあってはならない小生達の青春の一頁でありました。  
(昭和二十三年卒 山藤 和夫)



### 同窓会大好き

植木支部長の奥様のお話しによれば「うちの主人は土浦のこと一高のこと同窓会のこととなると目の色が変わるのですよ」と。それほど土浦を、一高を同窓会を愛しておられるのです。港区議会議員という日々お忙しい公職を持たれながら、ほとんどの幹事会にご出席になり色々のご指導を下さっております。

大野金一さんは東大出の気鋭の弁護士です。弁護士業の傍ら日本ハンドボール協会の専務理事をされたり一時は東京弁護士会の副会長もされてご多忙でしょうに事務局長として一切の事務的処理を引き受けて下さっています。

坂本善之さんはビル全部がバラエティに富んだ飲食店という「玉淀」のオーナーです。幹事会の都合の良い料金で会場を提供して下さいます。

渡辺光夫さん、土方登志子さん、土金雅晴さん、長戸琴さん、姥原芳和さんらは活発な意見や提案で幹事会をリードしてくれます。

坪井洋さん、山田明さん、田村恒さん、片岡宏之さん、大土英三さん、関山三郎さん、幕内邦夫さんたちは、会計・広報・会場設営・総会運営・会報編集などの分野で同窓会の屋台骨を支えてくれています。私も微力ながらまとめ役をさせていただいております。みんな働き盛りだし忙しいのですが

共通していることは「同窓会大好き人間」だということです。だから同窓会が盛会であればあるほど幸福感に浸れるのです。そして知るので同窓会とは「この幸福感を共有できる場」であることを。

(昭和二十八年卒 芳尾 敬一)



### 同窓会によせて

一年振りの先輩・同級生・後輩との再会にその感激が今だにはっきりと残っています。そのくらい私にとってこの同窓会の意義は大きなものであります。

私も支部幹事を引き受けさせていただいて二年目ですが、一人でも多くの参加者をとの思いでいろいろお願いいたしました。十一名の出席があ

りました。前年六名からは大分増えたように思えますがもっと多くの出席を願っていたのが本心でございます。やはり直前になって呼びかけただけではなく日頃からの準備が必要と改めて痛感しました。その為早速今回十一名の出席者を中心に九月六日に同期会を開き来年に期するつもりです。

この感激は一人でも多く味わってほしい一心です。

さて今回の同窓会についてですが、郷土色豊かなお囃子を取り入れたことは大きな成果と申します。田舎者だちの私にとって祭はやはり大きな思い出として心に深く残っており、それを東京のド真中でしかも同郷の皆様と一緒に楽しめたことは何とも言えない郷愁を呼び起こしてくれました。私は石岡生まれで毎年関東三大祭の一つの総社祭を楽しんで育っただけに笛や太鼓の音は人一倍なつかしく感じました。

この時ふっと思ったのはここにあのなつかしい綿アメやかき氷が用意されていたら童心に帰りもっとお祭の気分が味わえたのになーと思ったりもいたしました。

準備には幹事の皆様の大変なご苦労があり深感謝する次第でございますが、来年も更にすばらしい企画のもとに出席して本当によかったと皆さんが喜んでもらえる同窓会に発展させたいと心に念じている次第です。

最後に幹事の皆様本当にご苦労様でした。ありがとうございます。  
(昭和三十五年卒 大土 英三)

### 「勝牛会」のこと

昭和三十六年卒業三年F組のクラス会名称として「勝牛会」が歩み出して三十年がたつ。当初は地元が中心となり年一回程度の集まりがあったように思う。しかし、卒業十年余ともなると東京に勤務している者が中心となり会社の帰りに気楽に集まるようになってきた。

年一回の会の集まりの通知の労力は同窓会の比ではないが、面倒に思うことも確か。しかし、クラスの面々の顔を想い浮べるとその面倒を厭わなくなるから不思議。最近各自、近況を報告しながら健康のこと子供の進学のことなどを話題にし、一瞬のうちに時間を過ごし次回の再会を約して別れる。

これからは勝牛会の面々を同窓会へと働きかけ参加できるようにし、諸先輩と共に進修同窓会をより一層魅力的なものにしていくのが、私の役割なのかもしれません。  
(昭和三十六年卒 関山三郎)

### めざせ甲子園

毎年夏になると、全国的に高校野球が注目されます。母校土浦一高も過去に一度だけ、安藤統男先輩の時に甲子園に出席しております。

今年の一高の戦績は、一回戦江戸川学園を相手に十四対三で勝ち、二回戦は土浦日大に対して九対五で惜しくも敗れてしまいました。

平成 2 年度決算

前年度繰越金	九一四、五五三円
年会費	八一六、〇〇〇円
総会懇親会会費	一、一四六、〇〇〇円
広告料	七五〇、〇〇〇円
テレホンカード売上金	三六四、〇〇〇円
寄付金・雑収入	一六一、四八九円
計	四、一五二、〇四一円
(支出)	
通信費	二九二、七一九円
総会懇親会会費	一、一七〇、〇〇〇円
印刷費	三二一、八七五円
テレホンカード作製費	六九〇、〇〇〇円
写真代	一三、一四九円
振替振込み手数料・雑費	五三、四〇〇円
計	二、五六一、一四三円
(次年度へ繰り越し)	一、五九〇、八九八円

平成 3 年度予算

(収入)	
前年度繰越金	一、五九〇、八九八円
年会費	八〇〇、〇〇〇円
総会懇親会会費	一、三八〇、〇〇〇円
広告料	五〇〇、〇〇〇円
テレホンカード売上金	三〇〇、〇〇〇円
計	四、五七〇、八九八円
(支出)	
通信費	二四八、四〇〇円
総会懇親会会費	一、五三〇、〇〇〇円
会員管理委託費	三六七、五〇〇円
幹事会費	二〇〇、〇〇〇円
機関誌印刷・発送費	二六二、〇〇〇円
印刷費・雑費	二五〇、〇〇〇円
計	二、八五七、九〇〇円
(次年度へ繰り越し)	一、七一一、九九八円

平成 3 年度 東京支部総会出席者名簿

- (昭 5) 伊藤繁雄 小松澤慎一 (昭 6) 茂在寅男 (昭 8) 植木満 日辻常雄 黒木栄 武田實 (昭 14) 塚本明光 (昭 19) 植木和男 (昭 20) 篠田康 坂井祥司 渡辺光夫 酒寄和郎 山口進 (昭 22) 久野茂男 渡辺弥惣治 宇田政一 (昭 23 中) 藤代和男 延島信也 田川豊 渡辺 山藤和夫 (昭 24 高) 村上正康 飯島敏昭 鈴木悦郎 杉山弘 木島幸夫 砂山嘉幸 (昭 25) 中泉淳 (昭 27) 坪井洋 鈴木俊清 今井伸之 (昭 28) 芳尾敏一 逆井福美 山田明 黒田常 池澤卓 酒井文麿 砂川憲二 狩野明男 (夫人) (昭 29) 大沼鉄城 土井修 西川恵美子 池田守 (昭 30) 西林郁雄 貝塚俊雄 (昭 31) 石塚一夫 荻沼善也 矢口勝英 山田晴康 西村邦夫 坂本善之 田村恒 沢野仁郎 渡辺隆 山本栄夫 大野金一 渡辺登 (昭 32) 萩原孝 千葉晃毅 片岡宏之 土方登志子 湯本仁 貝塚光雄 (昭 33) 酒井静雄 高橋伸治 湯原勝明 沼里征二 奥井昭夫 佐藤修一 竹内徳夫 佐々木弘司 永井信男 (昭 34) 雨貝一郎 岡澤秀明 大久保皓司 海東宗平 (昭 35) 大土英三 中島豊治 長谷川金夫 鈴木裕士 松沢邦幸 飯田明 福田弘 今井洋夫 加藤勝弘 椎名麻沙枝 遠藤文夫 稲見嘉彦 (昭 36) 関山三郎 土金雅晴 三浦清次郎 秋山馨 加倉

- 井健一郎 (昭 37) 矢口照雄 (昭 38) 宮本誠之 小林雅美 坂入一己 (昭 40) 大竹伸一 大関光子 北浦敏子 片桐敬子 椋茂広 (昭 41) 今泉房子 長戸琴 安井恵子 糸賀節 市村誠 浅野宗玄 久松信明 沼尻利喜男 矢口和彦 岩波嶺雄 安達周 鈴木保 河合隆 甲田三重 吉行章子 増田淑恵 露久保晃 高山了 田中哲 宮本英尚 山岡憲 山田千鶴子 水越章太郎 安東克典 (昭 42) 須藤建夫 伊集院令子 小林隆一 (昭 43) 幕内邦夫 渡辺慎一 光永研一 坂本充子 中村洋子 (昭 44) 中島悦子 桜井博治 (昭 45) 猪俣勝広 関根康夫 鈴木良治 (昭 46) 岡本英子 蛭原芳和 後藤由美枝 小野喜雄 塚本康彦 椎名規子 田中千裕 (昭 47) 飯島朝子 (昭 48) 矢口博之 君山利男 羽成利弘 (昭 49) 上田龍児 (昭 50) 瀧崎章夫 鶴町利地 高木恒英 (昭 53) 須田久美子 (昭 54) 片岡正徳 (昭 55) 柴崎敦子 (昭 56) 酒井学雄 (昭?) 田中・村上・本多・飯島

平成 3 年度年会費納入者名簿

平成 3 年 9 月 10 日現在

- (大 13) 松浦清 (大 15) 黒田武重 (昭 3) 小松沢栄之助 田戸忍 (昭 4) 野口成 木村利平 茂呂茂一 (昭 5) 伊藤繁雄 小松澤慎二 茂在寅男 小野次夫 (昭 7) 河合周一郎 飯塚清一 鈴木敏男 (昭 8) 植木満 日辻常雄 武田實 黒木栄 高野明仁 小

- 野正廣 新井謙 遠峰四郎 (昭 9) 角田輝夫 (昭 10) 根本準 (昭 11) 田村啓三 (昭 12) 沼尻春 鶴岡義雄 藤田誠一郎 高野克夫 (昭 13) 飯田毅 (昭 14) 塚本明光 飯村達 初鳥吉夫 宮崎仁 (昭 15) 桜井理夫 竹村美 友部昌訓 稲葉一郎 平田孝善 沢辺保 (昭 16) 玉置忠三 井上静男 (昭 17) 清水武司 瀬尾隆 木川幾四郎 加茂川廣行 鈴木春治 (昭 18) 奥井勝二 清水榮 (昭 19) 植木和男 平塚寛次郎 滝沢正之 池田英夫 (昭 20) 篠田康 坂井祥司 渡辺光夫 酒寄和郎 篠山文夫 清田敏郎 安達恵三郎 佐々木清志 小貫拳一 栗山彦七郎 松尾一郎 田中和夫 小貫達雄 (昭 21) 片岡正雄 (昭 22) 久野茂男 渡辺弥惣治 宇田政一 岩瀬繁 野沢弥太郎 木村省吾 (昭 23 中) 藤代和男 延島信也 田川豊 山藤和夫 渡辺 色川弘 柳澤重男 (昭 24 中) 寺町幸政 駒林誠 (昭 23 併) 大内宏 (昭 24 併) 源田光也 多賀谷秀夫 宮崎信守 鈴木彰一 (昭 24 高) 村上正康 飯島敏昭 鈴木悦郎 杉山弘 木島幸夫 砂山嘉幸 菊地誠一 根本隆 荒川巖 (昭 25) 中泉淳 武村信男 尾坪祐三 長谷川藤吉 伊関昭雄 宮本守也 浅井康三 高橋孝 (昭 26) 桜井琢也 小松伸弥 福島剛 塙茂雄 船橋哲哉 熊倉涉 墨子悌二 羽成岩雄 関六郎 戸張宙 飯島則夫 高橋三千雄 大島順 (昭 27) 坪井洋 鈴木俊清 今井伸之 高木弘一 徳武昭八 青木栄夫 野口三雄 泉武明 柳下満 石橋達 平根健 和田哲夫 海上明 篠崎豊太郎 友寄英哲 小松崎

瑞彦 (昭28) 芳尾敬一・逆井福美・山田明・黒田常・池澤卓・酒井文磨・砂川憲一・谷口隆造・西塔尚道・内山満雄・小野秋夫・鈴木昭・佐藤篤・小島久弥・矢口晴彦・池田正一・菊池峰夫・冲山武夫・小泉憲弘・関口雄二・金塚英雄・小松暉・山崎勉・越川薫一・古橋勝・狩野明男 (昭29) 大沼鉄城・土井修・西川恵美子・池田守・小泉恒夫・奥村好太郎・来栖幹雄・幕内仁三・鳥居由幸・野口章・久保田昭男・深見英彦・増淵実・羽取昌・今宮洵・飯島義雄 (昭30) 西林郁雄・貝塚俊雄・山崎満・菊池順一・坂寄繁・皆川浩・清水和雄・柳沢善次郎 (昭31) 石塚一夫・荻沼善也・矢口勝英・山田晴康・西村邦夫・坂本善之・田村恒・沢野仁郎・渡辺隆・山本栄夫・大野金一・倉持功・岡野吉彦・井坂正・川村五郎・天目重雄・露木修・清水鉄弥・小田部精・五頭隆治・長島弘道・大竹恒夫・酒井清明・小菅哲男・渡辺登 (昭32) 萩原孝・千葉晃毅・片岡宏之・土方登志子・湯本仁・貝塚光雄・仲田実・菅谷光・永作幸男・原信司・神立園治・松葉修・芝徹也・桜井恒男 (昭33) 酒井静雄・高橋伸治・湯原勝明・沼里征一・奥井昭夫・星野徳博・佐藤修一・竹内徳夫・佐々木弘司・永井信男・今橋富美男 (昭34) 雨貝一郎・大久保睦司・小林愛樹・秋元中寿・唯根貞生・小松周也・海東宗平・大崎信重・齋藤忠護郎・岡澤秀明 (昭35) 大土英三・中島豊治・長谷川金夫・鈴木裕士・今井洋夫・加藤勝弘・椎名麻沙枝・円城寺菊雄・斎藤洋一・松沢邦幸・飯田明・

福田弘・酒井憲志・諸橋基之・石林昭子・後藤敏・鈴木靖方・大塚武 (昭36) 関山三郎・土金雅晴・遠藤文夫・三浦清次郎・稲見嘉彦・菊田佳幸・原田泰巨・奥井瞭・加倉井健一郎・岩浪洋明・大久保五郎・小松崎文夫・諸岡丈夫・杉浦勝彦・平塚芳雄・秋山馨 (昭37) 矢口照雄・横田正彦・伊藤梯二・市村茂雄・松岡邦彦・須長那智子・鈴木純一 (昭38) 宮本誠之・小林雅美・坂入一己・小貫茂樹・横田正己・増田邦彦・埴弘道・木山恵世・畦地典子・北澤威男・戸田一俊 (昭39) 櫻村忠・渡部弘昭・羽方純・戸田雅子・塚本宏・常松秀裕 (昭40) 大竹伸一・大関光子・北浦敏子・塩原修蔵・長尾和子・諸岡健一・片桐敏子・椋茂広・飯田英明 (昭41) 今泉房子・長戸琴・安井恵子・糸賀節・市村誠・安東克典・浅野宗玄・久松信明・沼尻利喜男・矢口和彦・岩波嶺雄・安達周・鈴木良・河合隆・甲田三重・吉行章子・増田淑恵・露久保晃・高山了・田中哲・宮本英尚・山岡憲一・山田千鶴子・水越章太郎・大日向金弥・鶴峰團臣・小野利夫・三井寺敬子・川島房宣・萩原一男・松本久美子・片山学・中川邦雄 (昭42) 須藤建夫・伊集院令子・小林隆一 (昭43) 幕内邦夫・渡辺慎一・光永研一・坂本充子・中村洋子 (昭44) 中島悦子・桜井博 (昭45) 猪俣勝広・関根康夫・鈴木良治・白石哲男・飯野保雄 (昭46) 岡本英子・蛭原芳和・後藤由美枝・高田俊一・吉原勝・小山田淳子・小野喜雄・塚本康彦・椎名規子・田中千裕 (昭47) 飯島朝子・野

手薫 (昭48) 矢口博之・君山利男・羽成利弘・吉田正史・海上裕之・早川広行 (昭49) 上田龍児・川並尚 (昭50) 瀧崎章夫・鶴町利地・高木恒英・伊藤正朗 (昭51) 浅野透・菅野和義 (昭52) 武田雄一 (昭53) 須田久美子・源田潤子・川上隆行・稲田和夫 (昭54) 片岡正徳 (昭55) 柴崎敦子 (昭56) 酒井学雄 (昭?) 田中・村上・本多・飯島

学年幹事名簿

卒業年次	氏名	自宅電話	事業所電話
昭三	山藤 和夫	三三六三三三	三三六三三三
昭三	砂山 嘉幸	三三六三三三	三三六三三三
昭三	山藤 和夫	三三六三三三	三三六三三三
昭三	山藤 和夫	三三六三三三	三三六三三三
昭三	坪井 洋	三三六三三三	三三六三三三
昭三	芳尾 敬一	三三六三三三	三三六三三三
昭三	西川 惠美子	三三六三三三	三三六三三三
昭三	貝塚 俊雄	三三六三三三	三三六三三三
昭三	田村 恒	三三六三三三	三三六三三三
昭三	坂本 善之	三三六三三三	三三六三三三
昭三	大野 金一	三三六三三三	三三六三三三
昭三	土方 登志子	三三六三三三	三三六三三三
昭三	片岡 宏之	三三六三三三	三三六三三三
昭三	沼里 征二	三三六三三三	三三六三三三
昭三	奥井 昭夫	三三六三三三	三三六三三三
昭三	佐々木 弘司	三三六三三三	三三六三三三
昭三	湯原 勝明	三三六三三三	三三六三三三
昭三	雨貝 一郎	三三六三三三	三三六三三三
昭三	大土 英三	三三六三三三	三三六三三三
昭三	加藤 勝弘	三三六三三三	三三六三三三

卒業年次	氏名	自宅電話	事業所電話
昭三	福田 弘	三三六三三三	三三六三三三
昭三	関山 三郎	三三六三三三	三三六三三三
昭三	菊田 佳幸	三三六三三三	三三六三三三
昭三	土金 雅晴	三三六三三三	三三六三三三
昭三	飯田 武	三三六三三三	三三六三三三
昭三	矢口 照雄	三三六三三三	三三六三三三
昭三	関山 三郎	三三六三三三	三三六三三三
昭三	宮本 誠之	三三六三三三	三三六三三三
昭三	戸田 雅子	三三六三三三	三三六三三三
昭三	池田 伸美	三三六三三三	三三六三三三
昭三	長戸 琴	三三六三三三	三三六三三三
昭三	浅野 宗玄	三三六三三三	三三六三三三
昭三	久松 信明	三三六三三三	三三六三三三
昭三	小林 隆一	三三六三三三	三三六三三三
昭三	幕内 邦夫	三三六三三三	三三六三三三
昭三	中島 悦子	三三六三三三	三三六三三三
昭三	白石 哲男	三三六三三三	三三六三三三
昭三	鈴木 良治	三三六三三三	三三六三三三
昭三	蛭原 芳和	三三六三三三	三三六三三三
昭三	田中 千裕	三三六三三三	三三六三三三
昭三	蛭原 芳和	三三六三三三	三三六三三三
昭三	君山 利男	三三六三三三	三三六三三三
昭三	竹田 彰彦	三三六三三三	三三六三三三
昭三	高木 恒英	三三六三三三	三三六三三三
昭三	鶴町 利地	三三六三三三	三三六三三三
昭三	川上 隆行	三三六三三三	三三六三三三
昭三	谷口 和正	三三六三三三	三三六三三三
昭三	片岡 正徳	三三六三三三	三三六三三三
昭三	柴崎 敦子	三三六三三三	三三六三三三
昭三	酒井 学雄	三三六三三三	三三六三三三
昭三	〃	〃	〃

平成四年度

土浦一高東進会  
(土浦中学土浦一高東京進修同窓会)

開催日程決定!!

平成四年度の東京進修同窓会の日程が次の通り決まりましたのでお知らせします。  
尚、詳細につきましては別途皆様へご連絡いたします。

日時

平成四年六月六日(土曜日)  
十二時~十五時

会場

東京プリンスホテル  
(港区芝公園三三三二一)  
会費 男性 一万円  
女性 八千円  
(年会費)二千円含む

次回も様々な企画を予定しておりますが、ご要望等がありましたら、各学年幹事・支部幹事又は事務局までご連絡ください。

会員いんふおめーしょん

- (中三十一回) 植木 満氏 港区議会議員六期当選
- (中三十七回) 宮崎 仁氏 勲二等旭日重光章受賞 (元アラビヤ石油会長)
- (中四十回) 幡谷祐一氏 進修同窓会会長就任 (高五回)
- 伊野武博氏 伊野野田企業設立 代表取締役
- 小倉 司氏 働電通PRセンター 専務取締役
- 北島正和氏 古河電気工業 専務取締役
- 菊池峰夫氏 日本軽金属 取締役
- 黒田 常氏 働広洋社 代表取締役
- 小泉恵弘氏 三菱商事 取締役
- 酒井良治氏 旭電化工業 常務取締役
- 塙 哲夫氏 在バルセロナ日本国総領事に転任
- 矢口晴彦氏 三井石油開発 取締役
- (高六回) 土井 修氏 味の素 取締役
- (高七回) 皆川 浩氏 第一證券 専務取締役

安昌 克氏 鹿島建設 取締役

(高十一回) 糸賀 勲氏 働三菱銀行 取締役

(高十二回) 大土英三氏 セゾン生命保険 取締役東京営業本部長

飯田 明氏 国民金融公庫 川崎支店長

(高二十三回) 蛭原芳和氏 CM 日立の石油ファンヒーター(十月より放映)

CD レッツ・クリン・アップ・ザ・レイク(シングル)発売

今回より同窓生の近況等をご紹介することになりました。つきましては先

東京支部特製  
テレホンカード

懐かしい母校の正面玄関校舎の写真のテレホンカードを会員の方へ頒布しております。一枚千円(限定販売)ご希望の方は事務局へご連絡下さい。



輩、同級生、後輩等の近況及びプロフィール等をご紹介したいと思っておりますので、情報等ふるって学年幹事及び支部幹事までご連絡下さい。  
各学年幹事等の連絡先は別記名簿に記載されております。  
尚、今回は紙面の都合上、一部の同窓生になってしまいました。より多くの方をご紹介したいと思います。

東京進修同窓会  
東京支部総会



編集後記

東京プリンスホテルでの三回目の総会も無事終えて、幹事の皆さん本当にご苦労様でした。会の通称も「土浦一高東進会」と名付けましたので、懸案の会報の名称も「東進」と付けさせていただきます。今後紙面に会員の皆さんのご意見や情報などを掲載したいと思っておりますので、どしどし事務局にお寄せくださるようお願い致します。